（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	なな星			
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日		～	令和7年2月8日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	3	（回答者数）	3
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日		～	令和７年　２月８日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	4	（回答者数）	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和７年　3月　3日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	午前、午後の2部制にしていることにより、児童一人当たりの職員の数が他事業所と比較し手厚くできている。	児童一人ごとに担当がつき、継続した療育とアセスメントが出来ている。	担当を中心とし、児童一人ごとに全体ミーティングを行い多数の視点から療育の質の向上をはかる。
2	個別療育、集団療育どちらも行っていること。	他者とのコミュニケーションを育む集団療育と個別の課題を解決をはかる個別療育をおこなう。	児童の受け入れ人数を増やし、集団での取り組みをより行いやすくする。 評価スケールを積極的に活用し、個別課題の段階をより明確化して質の向上をはかる。
3	連絡帳をデジタル化し、素早く具体的な療育内容を保護者に伝えることが出来る。	療育中の写真を積極的に撮影し、活動の様子を具体的に保護者に伝える。	デジタルツールを積極的に導入し、事務仕事を効率化する。浮いた時間を研修やミーティングなど質の向上にあてる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の療育以外の活動の少なさ。（地域交流、保護者会など）	日常の療育に注力し、地域交流や保護者を対象にしたイベントなどが開催できていない。 また児童館に連れて行くなどの活動を行っているが、保護者様に地域への参加という目的が伝わっていない。	日々の療育以外にも、地域活動へ参加したり保護者会を開催したりするようにする。 地域施設の利用が、地域への参加に繋がることを周知する。
2	災害への備え、マニュアルの保護者様への周知ができていない。	研修等が内部に留まり、保護者様への周知ができていない。 児童を含む訓練ができていない。	児童を含んだ防災訓練、安全訓練を行う。またその取り組みを掲示し、保護者様への周知をおこなう。
3	療育のプログラム立案、検討がチームではなく担当ごとになっていること。	午前、午後通しての受け入れ児童がいること、朝一の送迎業務があること、などによりスタッフ全員が同時に顔を合わせるミーティングの場が取れないでいる。	児童の受け入れ時間を固定し、ミーティングの時間を十分に確保する。